

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	8
1. 理念の共有		1
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		2
5. 人材の育成と支援		0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		5
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		6
1. その人らしい暮らしの支援		4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		20

事業所番号	1470600915
法人名	特定非営利活動法人 うえん会
事業所名	グループホーム銀の鈴
訪問調査日	平成26年8月26日
評価確定日	平成26年9月30日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
 外部評価は20項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [次ステップに向けて期待したい内容]
 次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

平成26年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1470600915	事業の開始年月日	平成17年10月1日	
		指定年月日	平成18年4月1日	
法人名	特定非営利活動法人うえん会			
事業所名	グループホーム銀の鈴			
所在地	(240-0035) 横浜市保土ヶ谷区今井町880			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	9名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成26年8月12日	評価結果 市町村受理日	平成26年10月25日	

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F		
訪問調査日	平成26年8月26日	評価機関 評価決定日	平成26年9月30日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

①このホームの経営はNPO法人うえん会です。うえん会の名前の由来は、あらゆる人から、頂いているご縁(うえん：縁が有る⇒有縁)に感謝し、いつも振り返りを忘れないとの意味です。グループホーム銀の鈴は、平成12年10月1日に青葉区に開設し、その後、保土ヶ谷のこの地に移り、このホームに加えて銀の鈴2号館を平成21年10月1日に開設しています。立地はJR保土ヶ谷駅からバスで西の方に約20分程度のところにあり、建物は3階建てでBFが玄関、エントランスロビー、事務室、職員の休憩室となっており、1F、2Fに2ユニットのグループホームが展開されています。

②法人の理念は「その人らしい生き方と尊厳を守り、次代を見通し、地域の一員として生活できる支援」であり、更に運営方針を6項目作成しています。職員は平素、理念を印刷したものを名札に入れて常に携帯し、全員でケアに活かす努力をしています。利用者が介護面のみならず、医療面でも安心して過ごせるよう2号館管理者は看護師の資格を持ち、此処の管理者も現在准看護師の資格を有しながら、更に看護師資格の取得を目指して勉強中であり、職員にも介護資格の上位の者の取得を奨励し、資格に対する手当も出し、全体のレベルアップに努めています。職員の研修にも力を注ぎ、介護福祉士受験に必要な知識をカバー出来る研修マニュアル、横浜市の認知症マニュアル等を完備し、年間指導計画に沿ってテーマを決め、きめ細かい研修を実施しています。

③このホームでは利用者が楽しく生活して貰えるようイベント等を企画し、それをご家族、ご近所と共催で実施している点に大きな特徴があります。自治会との関係も良く、相互に、敬老会へのご招待など行事への参画やご近所の方がホームのイベントに参加する等、自然体で交流が行われています。利用者のための音楽療法は長く継続していて、利用者も楽しみにし、先生の利用者に対するコメントも介護にとって有効な情報となっています。ホームのイベント時には自治会のテント、机等を貸してくれるような親密な関係が確立しています。近所に対しては、ごみ出しの場所の提供をすることで、地域の人の関わりを大切にしています。ホームの建物オーナーが災害時の為に井戸を掘削してくれ、法人で浄水器を購入し、ホームと地域の人の飲料水を確保できました。防災備蓄についても、ホームの物置以外にもオーナーの物置にも置いて十分に確保し、近所との防災の協力体制も出来ています。

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

●行事やお楽しみ会は年度当初に計画を立てて、ご利用者、ご家族、自治会、近隣の皆様、ボランティア、職員が一緒になって楽しいひと時を過ごしている。日常的な外出には社会的リハビリとしての目的を持たせ、いきいきと日常生活を送っていただくための支援として実践している。

●ご家族と、地域の皆様のご協力により地域の一員としてその人らしく生活できる介護支援に努めている。

●管理者と職員は、実践と理論を重ね合わせるため、資格試験に挑戦したりホーム内外の研修に励んでいる。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム銀の鈴
ユニット名	虹の郷

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の一員として生活できる介護支援」を法人の理念の一つとして掲げ、地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えている。管理者と職員はその理念を共有し、実践に繋げることができるようミーティング(計画作成担当者会議)の度に話し合い、振り返ることで日々のサービス提供に反映している。さまざまな行事開催を通して、家族・友人・地域の方々との交流を図っている。また自治会や地域清掃、七夕祭り、盆踊り、敬老会に参加している。	法人の理念は「その人らしい生き方と尊厳を守り、次代を見通し、地域の一員として生活できる支援」であり、更に運営方針を6項目作成しています。職員は平素、理念を印刷したものを名札に入れて常に携帯し、全員でケアに活かす努力をしています。管理者と職員はその理念を共有し、実践に繋げることができるようミーティング(計画作成担当者会議)の度に話し合い、振り返ることで日々のサービス提供に反映しています。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として、地域の方々との交流を図り、双方の関係を作っている。今井町自治会の特別会員として主催の行事(敬老会、盆踊り、七夕祭り、防災教室)には積極的に参加している。ホーム主催の行事には、自治会や近隣の皆様をご招待している。行事に必要な備品・道具を自治会より借りている。また紙資源リサイクルやボトルキャップの収集など活動を行い、地域包括支援センター主任ケアマネのホーム見学会も受け入れる予定である。	地域の一員として、地域の方々との交流を図り、双方の関係が出来上がっています。今井町自治会の特別会員として主催の行事(敬老会、盆踊り、七夕祭り、防災教室など)への参加や、ホーム主催の行事には、自治会や近隣の皆様をご招待しています。ホームの行事の際には自治会のテントや備品を借りている。また、自治会主催の清掃日には清掃活動に参加し、紙資源リサイクルやボトルキャップの収集など地域住民と自然な形で交流しています。利用者のための音楽療法も継続しています。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者や職員が、自治会の行事や清掃活動に積極的に出かけて行くことで銀の鈴の皆様のことを理解してくれている。今年度は、保土ヶ谷区内のケアマネ事業所の新人ケアマネ(入職1年未満)のグループホーム見学を受け入れるなどして貢献をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年間6回実施している運営推進会議では、銀の鈴における活動の実際や、今後の取組みなどを報告・相談し、検討している。地区センター、自治会、地域資源の情報をアドバイスとして受け取り、サービスに活かしている。終末期ケアなどの事業所の運営に関することへの話し合いも行われ、そこでの意見を活かしながら実践に取り組んできた。	運営推進会議は年間6回実施しています。メンバーは地域代表(2名)、民生委員(1名)、家族会代表(3名)地域包括支援センター主任ケアマネ(1名)、ホーム関係者で、2号館と同じ日に時間をずらして開催しています。自治会、地域介護資源に関する情報のアドバイスを受け、サービスに活かしています。終末期ケア等の事業所の運営に関しても話し合い、意見を活かしながら実践に取り組んでいます。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区の健康づくり係、福祉局に行く機会を作り相談支援を受けている。また、グループホーム連絡会ブロック会議に参加することで区の高齢福祉担当にホームの状況を伝える機会となった。行政によるサービス(インフルエンザ予防接種の自己負担免除、対象者へのおむつの給付など)にかかる手続きを通じて連絡の機会がある。市へは、事故報告書の提出の際に報告や相談、指導を得てサービスに活かすよう取り組んでいる。	利用者の手続き支援があり、保土ヶ谷区役所等行政との連携は多く持っています。障害者手帳、訪問理美容券(要介護3以上は年間6枚の割引き券)申請、自立支援の更新や、生活保護受給利用者の意向の取次ぎ等、単身の生活保護受給利用者が複数入居している為、生活扶助や医療扶助など個別の状況を相談・報告を積極的に伝えていきます。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の定義（厚生労働省告示第129号）をホーム内に掲示し、研修を行うことで管理者及び全職員が正しく理解できるよう努め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。生命の擁護のためにやむを得ず一時的に拘束が必要と判断された場合は、家族と十分に話し合う場を設け「身体拘束等の理由・実施経過記録」を作成し、理解と同意を得た上で職員への正しい理解と認識に努めている。玄関の施錠については家族会からの申し出により施錠している（防犯上と事故防止のため）。また管理者は施錠を身体拘束の一種ととらえ、施錠に対する弊害も説明している。	法人理念として身体拘束をしないケアを基本としており、毎年繰り返して研修を実施しています。身体拘束の定義を管理者及び全職員が正しく理解できるよう努め、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。やむを得ず拘束が必要なケースの場合には「身体拘束等の理由・実施経過記録」を作成し、家族の理解と了解を得ています。玄関の施錠については防犯上と事故防止のため家族会からの申し出により、施錠しています。また、その場で管理者は施錠に対する弊害も説明しています。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者と職員は、高齢者虐待とは具体的にどのような事を言うのかを学ぶために職員研修の機会をもっている（高齢者虐待防止法第2条3項,4項）。人権週間にはホーム内研修を開催し管理者と全職員で話し合っ振り返り、学びの機会とした。利用者が日常的に何でも話しやすい環境づくりに努めている。また職員のストレス解消にも配慮し、ミーティングの際あるいは日常的に意見や思いを表出できるように工夫をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者と職員に社会福祉士がいることでいつでも権利擁護に関する制度について学ぶ機会を持つことができる。研修の場も提供している。家族から申し出があった時には、成年後見人制度についての話し合いの機会を設けることができている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に、契約に関する説明と納得が得られるよう、運営規定・契約書・重要事項の説明をしつつ、家族等の不安や疑問点を尋ねている。入居の際には再度意思の確認をすることで、理解・納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族からの意見・要望や苦情は、日常的に職員に表せるような関係づくりに配慮し、運営に反映させている。家族の面会時には個人カルテ、看護記録、観察記録を開示し暮らしの様子を伝えるなかで、意見や要望を表せるように努め、意向はその言葉のまま記録して共有できるようにしている。家族会や運営推進会議にて、運営についての意見や苦情を述べる機会を作っている。「意見箱」を作り、無記名で受け付けをしている。外部の苦情受付窓口の存在を玄関に張っている。苦情等あった時は、記録をしそれらには迅速に対応し運営に反映させている。また一年に数回、家族と職員の交流会を実施して機会作りをしている。	利用者の意見、要望は日頃のケアの中から抽出し、ご家族の意見、要望は、家族会、運営推進委員及び来訪時などに伺い反映させています。家族の面会時には個人カルテ、看護記録、観察記録を開示し、暮らしの様子を伝える中で、意見や要望を表せるように努め、意向はその言葉のまま記録して共有できるようにしています。また、無記名で意見、要望を言えるよう、玄関に意見箱も設置しています。外部の苦情受付窓口も玄関に掲示しています。本人の暮らしぶりや変化はお便りや健康観察記録でお知らせしています。家族会や運営推進会議においても、運営について意見や苦情を述べる機会を作ったり、年に数回、家族と職員の交流会をしています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員の意見や提案を聞く機会を設けるため、ミーティングを適宜開催している。今では職員から主体的にミーティングが計画されてきている（今年度は、年末年始の休業に関する運営規程の変更を検討している）。また定期的に管理者と複数の役職員が運営に関するミーティングを実施しており、意見や提案を充分に聞くことにより職員の働く意欲の向上やさらには介護の質の確保につながるよう努めている。報告や相談は24時間いつでも受け取る体制をとっている。	職員の意見や提案については、原則的にミーティングで聞き反映するようにしています。現在は職員が主体でミーティングを行い、例えば今年度は、年末年始の休業に関する運営規程の変更を検討しています。また、定期的に管理者と複数の役職員が運営に関するミーティングを実施しており、意見や提案を充分に聞くことにより職員の働く意欲の向上、介護の質の確保に努めています。職員からの報告や相談は、24時間いつでも受け取る体制を構築しています。資格取得に関する配慮、処遇改善、キャリアパス、育休の制度もあります。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員個々の勤務状況を把握できるようにしており職員各自が向上心を持って働けるように職場環境・条件の整備に努めている。相談がある時はいつでも連絡が付くようにしている。管理者は職員の結婚や病気療養等のやむを得ない休職に対しては、現場に欠員をつくらないように職員配置に全力で努めている。休憩室にはコーヒー、ポット、テレビを設置して一息つける環境の整備を行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格試験対策の勉強会をホーム内でも開催するなど、働きながら資格を取得できる機会の確保に努めている。職員一人ひとり、現場で活躍しているからこそ、実践と理論を結び付けた介護を行うことができるよう研修・勉強することが大切であると考えている。年度当初に研修計画を立て、ホーム内外の研修を受ける機会の確保をしている。研修時は、時間外手当がつき、休日にあたっているときは休日手当が支給される。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同業者との交流を大切にしている。相互訪問等の活動を通じて、情報の交換を行うことで、サービスの質の向上に取り組んでいる。今年度は、見学研修（職員相互研修）を実施、管理者はグループホーム連絡会ブロック会議に参加。他のグループホームの管理者と交流をしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談では、本人に事前面接を実施し困りごと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための信頼関係の構築に努めている。午後のお茶の時間帯に面談を実施することで、くつろげる雰囲気作りに配慮し本人が気持ちを表現しやすいように工夫をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホーム内を見学していただくことで家族自身がホーム内の雰囲気を実感していただけるよう配慮している。家族が困っていること、不安なこと、要望に耳を傾けながら関係づくりができるよう努めている。行事やお楽しみ会への参加を通じて、家族同士が話し合える機会を持つことができるよう工夫している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談の時点より状況や意向を聴き把握することでアセスメントと課題の抽出を実施している。健康上の課題、経済的な課題など多様な生活上の課題を一緒に話し合う中で「その時」必要としている支援を見極めて他のサービス利用も含めた対応が提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員にとって利用者は人生の先輩であり、教わることが多々ある。利用者も職員も皆が毎日の暮らしの中で力を発揮して協力し合うことで、暮らしを共にする者同士の信頼関係を築いているよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者を支えるために、職員は家族と日常的な報告や相談を通してよく話し合い状況を共有できるよう努め、家族と協力できるような関係を築いている。面会や外出、外泊を制限することなく利用者と家族のきずなを尊重できるよう家族の繋がりを大切に考えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が地域の中で自分らしく暮らせるように、馴染みの人との面会、外出、外泊、通信に制限を設けてはいない。例えば年末年始の帰宅、故郷訪問、温泉旅行、彼岸・お盆のお寺参りなど。ご家族や地域の方々と協力し、利用者がこれまで培ってきた地域や社会での人間関係が途切れないよう努めることで、銀の鈴での暮らしに安心を得られるように支援している。行きつけの場所や、楽しみにしている場所を訪れることで入居生活にメリハリが付き不安が解消されている。	利用者が入居前に築かれた馴染みの人や、場所との関係継続を尊重し、相互の訪問など、意向に沿った支援に努めています。来訪は比較的多く、外出、外泊も自由に行っています。（例えば年末年始の帰宅、故郷訪問、温泉旅行、彼岸・お盆のお寺参りなど）ご家族や地域の方々と協力し、利用者がこれまで培ってきた地域や社会での人間関係が途切れないよう努めることで、銀の鈴での暮らしに安心を得られるように支援しています。行きつけの場所や、楽しみにしている場所を訪れることで入居生活にメリハリをつけ、不安の解消を図っています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が自然に関われる雰囲気を大切にしている。職員のさりげない気遣いで一人ひとりが孤立しない支援に努めている。一緒に家事全般をするなかで連帯感や、お互いへの感謝の気持ちが生きている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、ご家族や本人との関係を大切にしている。家族との連絡・相談支援も必要に応じて行っている。例えば経済的理由により特養に移った方を定期的に訪問し面会している。逆に、数年前に退所した利用者の家族が、折に触れホームに訪問してくれている事実がある		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員一人ひとりが、常に利用者の日常生活における希望や意向の把握に努めている。日々の暮らしの中でのことばや表情を汲み取っている。そのことを記録し会議によって職員は情報を共有している。ケアプランを立案する前には家族との面談によって思いを聴くことで、利用者・家族の暮らしへの要望・意向を受けとりいつでも本人本位になるように検討している。生活の中で春が待ち遠しく花が見たいという意向が出てくる。桜やバラなど見に行く計画を立てている。また把握困難な利用者の場合であっても表情や反応で汲み取るよう努めている。	職員一人ひとりが、常に利用者の日常生活における希望や意向の把握に努め、観察記録、個人カルテ、申し送りノートに記録し、基本情報とアセスメント表に照らし合わせながら、新たなニーズがないか会議によって検討し、職員間で情報を共有し、介護計画に反映し、ご家族にも相談しながら利用者本位の支援に努めています。生活の四季折々の中、利用者が花が見たいと云えば、桜やバラなど見に行く計画を立てています。把握困難な利用者の場合でも表情や反応で汲み取るよう努めています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族等から生活歴や暮らし方、生活環境を聞き取り、これまでの経過や暮らしの把握に努めている。個別の基本情報とアセスメント表を作成している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の中でADLや日常自立度などの確に観察し、個別性の把握に努めている。通常の個人カルテの記録の他に焦点になる必要情報を抽出して記録し、心身の状態の把握に努めている。特に共同生活においては今までの生活歴や生活環境で培ってきた有する力等を、心身に負担でないように発揮してもらい。役割を持っていただくことが、刺激になり、活動性を引出し、居心地の良い場の提供になると確信する。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族、訪問医療の医師、看護師職員、介護職員らが、利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し現状に即した介護計画を作成している。IVH点滴栄養を受けている利用者が居室の環境を変えたことで、本人が空腹感を訴え、経口摂取を試みたことでIVH点滴を外すまで改善できた。	介護計画策定については、緊急性、重大性を優先的に考慮し、サービス内容については、全員が同じように実施出来るように作成し、計画を補完する評価実施書の欄を設け実施出来るよう工夫しています。家族、訪問医療の医師、訪問看護の看護師、看護職員、介護職員が連携し、利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成していいいます。利用者に対する介護計画に基づく支援については、家族、医師、看護師、職員が連携して行っています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人カルテを、日勤、夜勤に分けて記録し、詳細に記録が必要な時は、個人カルテ2号様式に記録している。観察記録、看護記録、申し送りノートから実践、結果を共有しながら介護計画の見直しに活かしている。計画作成担当者は、記録に関する外部研修を受けた。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	社会福祉士や栄養士、保健師の資格を有する職員が在籍することで、サービス上の多機能化に取り組んでいる。IVH栄養点滴を受けていた利用者が、経口摂取が可能まで改善し、点滴は現在していない。他にも乗馬クラブに通い、動物セラピーを受けるなど、利用者と家族の意向を支えての多機能化のサービスに努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区センター、自治会などから行事やお楽しみ会を実施する際には備品や会場、駐車場を借用している。社会福祉協議会から車椅子を借りて利用者が家族と外泊するなど、社会資源を把握し活用することで安全で豊かな暮らしを送ることができるよう支援している。大型バスでディズニーランドに出かけた時には自治会の敷地を借りて安全にバスに乗り込むことが出来た。自治会長が利用者の体調を気にかけて声をかけてくれながら見送ってくださった。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者と家族の希望によって馴染みの受診先での医療を受けることができる。その場合は家族を介して情報交換を確実にしている。ホームでは、月2回の内科一般、週1回の歯科医の定期往診体制を確立していることで、より適切な医療を定期的に受けられるよう支援している。皮膚科、眼科には家族の付き添いにより、馴染みの医療機関を受診している。また医師及び医療機関と本人及び家族との間の橋渡しとしての支援も行っている。週1回鍼灸師の往診があり希望者が受診している。	内科は月2回、歯科は口腔ケアを兼ねて週1回の定期的な往診体制があります。緊急時などにも利用者と家族の意向に沿った医療が受けられるよう支援しています。緊急時の契約外受診先については、かかりつけ医より紹介状を頂き受診しています。利用者と家族の希望によって従来の主治医の受診は自由であり、その場合は家族を介して情報交換を確実に行うようにしています。2号館の管理者は看護師で、このホームとも契約しており、月4回健康管理を担当してもらっています。皮膚科、眼科等他科は家族の付き添いで受診しています。週1回鍼灸師の往診があり希望者が受診しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が週に一度の健康管理を行うことで利用者の体調の把握をしている。介護職員が日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを看護職員と管理者に伝えて相談することで情報を共有し、適切な受診や看護を受けられる機会を逸することなく支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に至った折には混乱の軽減や支援のためにこまめに面会に努めている。家族と経過を共有し相談支援をすることで安心できるように努めている。入院中はリハビリや食事の経過を知るために訪問し、その機会に病院関係者との情報交換・相談をすることで退院後はホームでの生活に即対応できるよう配慮している。病院関係者とご家族が面談を行う時には同意を得てホーム職員が同席することで病院関係者との関係づくりを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に係る指針（重度化と終末期）により、利用者と家族の希望を伺い、書面の提出を受けている。職員の力を総合的に判断しながら事業所でできることを説明し、その都度、話し合いながら方針を共有できるよう取り組んでいる。	入所時に重度化に係る指針により、利用者と家族の希望を伺い、書面を提出してもらっています。実際に終末期を迎えた時には、かかりつけ医や家族、職員との話し合いを持ち、家族の協力を前提とし、職員の力を総合的に判断しながら事業所でできることを説明し、その都度、話し合いながら方針を共有できるよう取り組んでいます。看取りを行う場合には看取りプランを立てて、ご家族と協力しながら支援に努めています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員研修で「事故防止の基本と危機意識」について全職員が学んでいる。誤嚥、転倒など色々な急変や事故発生場面を想定し、マニュアル作成と訓練を行いホーム内研修を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣の協力を得て行っている年に2回の避難訓練では、昼夜を問わず避難できる方法を身につけるとともに、消火訓練、通報訓練を実施し、職員と利用者は防災用品の使用方法も身につけている。非常食、カセットコンロ、オムツ等の備蓄をし備蓄場所は地域の方の提供場所を含め数箇所に分散している。備蓄品は定期的に点検を行っている。平成24年に建物オーナーが井戸を掘ってくださったことで非常時の水の確保ができています。浄水器を使用すれば、飲料水としての基準を満たしている。	年2回避難訓練を実施しています。避難訓練は夜間を想定した訓練も含めて実施しています。訓練の際は、近隣住民や自治会の参加協力を頂き、通報訓練・避難訓練・消火訓練などを実施しています。非常食、カセットコンロ、オムツ等の備蓄をし、備蓄場所は地域の方の提供場所を含め数箇所に分散管理し、定期的に点検を行っています。また、飲料水については、平成24年に建物オーナーが井戸を掘ってもらい非常時の水の確保ができています。浄水器を使用すれば、飲料水としての基準を満たしています。平成23年1月にはスプリンクラーを設置しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「その人らしい生き方と尊厳を守る」という法人理念の一つに基づいて、常に利用者の人格を尊重した支援を実践できるように努めている。呼称は様付けでお呼びし敬語を使用している。ミーティングでは介助の方法や声かけについて、一人ひとりの状況に合わせたプライバシーの確保を徹底するように話し合っている。必要時にはケアプランとして立案し、言葉だけでなくジェスチャーやアイコンタクトを活用して対応することを統一している。個人情報の保護についてはホーム内研修、外部講習会で学んでいる。記録等個人情報の取り扱いには十分に配慮し、書類の保管は書類保管庫に必ず施錠をし守秘の徹底に努めている。日々の記録を置いてある書庫にも簡易施錠を設置してある。	「その人らしい生き方と尊厳を守る」という法人理念の一つに基づいて、常に利用者の人格を尊重した支援の実践に努めています。呼称は様付けで呼び、敬語を使用しています。ミーティングでは介助の方法や声かけについて、一人ひとりの状況に合わせたプライバシーの確保を徹底するように話し合っています。必要時にはケアプランとして立案し、言葉だけでなくジェスチャーやアイコンタクトを活用して対応することを統一しています。個人情報の使用目的と制限について、ホーム内に掲示し、利用者や家族のプライバシーへの守秘義務は、就業規則に明記し、実践しています。個人情報は事務所にて保管し、不在の際は施錠することで守秘の徹底に努めています。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食材の買い出しでの食材の選定や、今日の献立、入浴の希望、外出時の洋服の選定など日常生活の中で自己決定の機会を設け希望を表出できるように働きかけている。自分の誕生日会での食事の内容を決めたり、家族との電話の希望なども表出できている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	運営方針である「一人ひとりの息遣い・呼吸に合わせた介護支援」の実践に日々努めている。職員の都合による業務を優先することなく、起床時間や食事の時間、休息、入浴、散歩など、一人ひとりのペースに合わせて、その日をどのように過ごしたいか、可能な限り希望に沿った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好みに合った服を着ていただいている。これまでの習慣を大切にし、自宅から持参した化粧品を日常的に使用しておしゃれを楽しむこともできている。月一回、理容師の訪問があり毛染めやパーマなどの希望に沿ったおしゃれを支援している。自己決定を表出することが困難な利用者には、これまでの生活歴や家族からの情報を参考にその人らしい身だしなみを整えられるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が職員と一緒にその日の献立を考えて食事作りや片づけを行うことは、利用者の有する力を活かしかれまでの暮らしを継続するためにも大切な支援であると捉え日々実践している。食材の買い出しにも一緒に行き、旬の食材、嗜好品を購入し食事が楽しみなものになるように支援している。自宅から使い慣れた茶碗、湯飲み、箸など持参している。職員も一緒に楽しく食べるようにしており介助する一方ではない。庭で育てた野菜や、地域の畑で作った旬の野菜や果物をいただき食卓に取り入れている。	利用者が職員と一緒にその日の献立を作成し、職員の栄養士が必要に応じて適切なアドバイスをしています。食材の買い物は、職員と利用者が一緒に行き、旬の食材や、嗜好品を購入し、食事が楽しみとなるよう支援しています。食材は国産を選んで使用しています。食器では、本人の使い慣れた茶碗、箸、湯飲みなど持参してもらい、使用しています。食事では職員も一緒に食卓を囲み、介助一辺倒ではなく共に食事を楽しんでいます。庭で育てた野菜や、地域の畑から頂いた旬の野菜や果物を食卓に取り入れています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事を作るときは、一人ひとりの食べられる量を勘案しながら食材の組み合わせによる栄養バランスを考えている。必要に応じて水分摂取量を記録して1日を通して必要量を確保できるように支援している。カロリー制限や疾病のあるご利用者には、医師や看護師の指示を受け、栄養士の職員から個別にアドバイスを受けている。職員の誰もがカロリー目安を立てられるようにカロリー換算表を作成するなど工夫している。個別の状況を内科医、歯科医師らと共有して、一人ひとりの歯の状態、咀嚼力、嚥下状態、消化力、活動性など総合的にとらえて食材や食形態を選択し支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週一回の訪問歯科医による口腔ケアを実施している。職員は歯科医師または歯科衛生士に一人ひとりの口腔状態について説明とアドバイスを受けている。毎食後は習慣に基づいた歯磨きができるように支援をし、利用者によっては職員が磨き残しの確認やフォローを行っている。義歯は毎食後に、入れ歯用のつけ置き洗浄剤を使用することで清潔を保持している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個別に排泄状況、パターンの把握に努め、可能な限りトイレでの排泄を促すことでオムツの使用量を減らす努力をしている。居室にトイレを設置することで、特に夜間の排泄が間に合わないことの防止になっている。気兼ねなく気持ちよく居室で排泄ができるため、プライバシーの保護にも役立っている。トイレで排泄を行えたことが生活全般の活性化にも繋がった経験を基盤に自立に向けた支援を行っている。	個別に排泄状況、パターンの把握に努め、可能な限りトイレでの排泄を促すことでオムツの使用量を減らすよう努め、気配を感じたらすぐに誘導するなど努力を重ねています。居室にはトイレを設備することでプライバシー保護に役立つと共に、特に夜間の排泄が間に合わないことの防止になっています。気兼ねなく居室で排泄ができるのもこのホームの特徴です。トイレで排泄を行えたことが生活全般の活性化にも繋がった経験を基盤に、自立に向けた支援を行っています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事には食物繊維を含むものを提供したり、水分の補給のためにお茶、スポーツドリンク、ヨーグルトドリンクを飲むことで便秘の予防に取り組んでいる。また、気分転換と全身運動とを兼ねて散歩に出かけたり体操をして体を動かす工夫をしている。個別の排便パターンを把握したり、必要に応じてかかりつけ医に相談している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の意向に沿った方法（湯船やミストシャワー、夏場のシャワー）や日時を可能な限り考慮している。季節により、菖蒲湯、ゆず湯、入浴剤を入れるなど入浴を楽しめるように工夫している。入浴への恐怖心が軽減できるように滑り止めマットを使用するなどして安全面に配慮することで安心できるように配慮している。同性の介助を希望される方にはその要望を汲み取り同性介助を実施し、羞恥心に配慮している。	本人の意向に沿った方法（湯船やミストシャワー、夏場のシャワー）や日時を可能な限り考慮して支援しています。季節により、菖蒲湯、ゆず湯などを用い、冬場は入浴剤を入れる等、入浴を楽しめるように支援しています。入浴への恐怖心が軽減できるように滑り止めマットを使用するなどして安全面に配慮し、安心して入浴できるようにしています。同性介助を希望される方にはその要望を汲み取り、同性介助を実施し、羞恥心に配慮しています。拒否する人についてはトイレ、歯みがきの後にお誘いするなどの工夫もしています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の休息のペースを掴み、日中に希望があれば昼寝をしていただく。就寝時間については、本人の生活習慣や体調に合わせた希望の時間に休むことができるようにしている。日光浴や買い物、散歩など日中に適度に体を動かすことで夜間の安眠に繋げられるよう工夫している。更に気持ちよく休息できるよう寝具を清潔に保ち、ベッド周りの環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医から処方された薬は、効能書きを個別にファイルして管理し、職員は薬の目的、副作用、用法用量について十分に理解できるように努めている。特に医師の指示で薬が変わった時には、家族とも情報を共有し職員間での申し送りを確実にやっている。職員は症状の変化の確認に努め、医師や薬剤師に相談できる体制となっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や有する力を活かして、家事全般や庭仕事などの役割の支援を行っている。耕作、野菜の収穫、音楽療法、動物の世話（抱く、散歩）など行っている。また、お花見や各種行事（運動会や演奏会や食事会）は楽しみごと、気分転換になっている。思い出を写真に残し掲示することで後々も思い出すことができ日々の張り合いにつながられている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりのその日の希望に沿って出かけられるよう支援に努めている。散歩、戸外で日光浴、職員と食材の買い物、昔馴染みの土地への外出、家族との温泉旅行、ドライブ、お墓参りなどに出かけている。家族や地域の人々と相談・協力し合って、利用者がこれまでの地域での暮らしを継続するための外出支援を実践している。これらは社会的リハビリの目的も兼ねており、車椅子の方も外出されている（例えば、毎年見に行くチューリップ畑、ディズニーランド、お誕生日の夕食など）	一人ひとりのその日の希望に沿って出かけられるよう支援に努めています。散歩、戸外で日光浴、職員と食材の買い物、昔馴染みの土地への外出、家族との温泉旅行、ドライブ、お墓参りなどに出かけています。家族や地域の人々と相談・協力し合って、利用者がこれまでの地域での暮らしを継続するための外出支援を実践しています。社会的リハビリを兼ねて、車椅子の方にも外出してもらっています。（チューリップ畑、ディズニーランド、お誕生日の夕食など）。また、ファミリー菜園野菜栽培、盆踊り、バーベキューなどの戸外での活動も多く実施しています。1号館、2号館を行き来することで良い運動となっています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>原則的には、必要なものを持参され、また必要となった品は家族が持参される。お金を所持することは家族の意向にもよる。小遣いを持っている利用者は、職員がフォローして小遣い帳をつけている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	フロアにご家族様のみ番号を開示している携帯電話を設置し、いつでもご家族からの電話を取り次ぐことができる。また、利用者からの申し出があれば、自由に使用できるよう支援している。絵手紙や年賀状などが届いたらやり取りができるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の切り花、観葉植物を常に飾っている。また、正月の門松、ひな人形、節句人形、七夕、お月見のお供えなど、季節の風習を取り入れ季節感を味わっている。共用空間は常に清潔を心がけ、清掃を徹底している。年に二回の専門業者による清掃や、24時間リビングで空気清浄器や加湿器を作動させるなど心地よく過ごせる工夫をしている。誕生会や、お楽しみ会の写真が貼ってあることで、思い出の共有と空間認識ができて良いとの外部からの意見も頂戴した。	ホーム内には季節の切花や植木、観葉植物が常に飾られています。正月飾り（玄関の門松は、竹の切り口から年神が入ってくるとして背の丈もある大きくて立派なもの）、雛人形、節句人形、七夕、お月見のお供えなど、季節の風習を取り入れ、季節感を味わえるようにしています。飾り付けは、幼稚さや温かみを損なわないように工夫しています。共用空間は常に清潔を心がけ、清掃を徹底しています。不快さや刺激に関しては、極力排除を心がけ、24時間空気清浄機や加湿器を稼働させ、温度・換気の管理の徹底に努めています。掲示は絵の得意な職員の書いた絵画、専門家の撮った写真、ホームの行事写真を掲示し、思い出の共有と空間認識をサポートしています。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気のあった利用者同士で過ごせるよう自由にテーブル、椅子を配置している。また、会話を楽しみたい方、テレビを見たい方、音楽を聴きたい方それぞれに居場所を確保できるようにしている。音楽療法などサービスに応じて席も自由に移動している。また、ソファや椅子を置き、座って語らせるようにあるいは1人でもくつろげるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人が家庭で使い慣れたものや、思い出のあるものを持参して、本人と家族が思い思いに家具の配置やコーディネートを行っており、居心地よく過ごせるよう工夫をしている。例えば、仏壇、タンス、鏡台、時計、家族の写真など、自宅使用の馴染みのものを持参している。居室にCDラジカセを持参して好みの音楽などを聴くことを楽しみにしている利用者もいる。	居室にはエアコン、クローゼット、トイレ、洗面台が備え付けられています。本人が使い慣れたものや、思い出のあるものを持参して、思い思いに家具の配置等のコーディネートを行い、本人が居心地よく過ごせるよう工夫しています。それぞれ仏壇、タンス、鏡台、時計、家族の写真など、馴染みの品を持参し、CDラジカセを持参して好みの音楽などを聴くことを楽しみにしている方もいます。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室ドアの前には表札、家族と本人の思い出の写真の掲示するなど「分かること」を活かす工夫をしている。ホームエレベーターは利用者の身体機能に応じて、安全かつ階段歩行が可能な利用者は職員の見守りで階段昇降を促して、有する力の活用をして自立の生活を促している。		

目 標 達 成 計 画

事業所

グループホーム銀の鈴

作成日

平成26年8月26日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	19	活動の予定や計画を、より共有しやすくする	その月のスケジュールを開示することで家族や本人が自分の暮らしの計画を立てやすくなる	いつでも家族・本人が自分から予定を確認が出来るようにスケジュール板の掲示を継続	一年間
2	2・4	実践を通じて積み上げてきた経験を地域の人々に向けて活かす	地域支援としての活動計画を立てる	年間行事予定に地域とのかかわりや地域支援のための欄を設ける	一年間
3	19	日々の生活の様子を分かり易い方法で伝える	日々の生活の様子を分かり易い方法で報告・開示することで家族と共に活動を振り返ることが出来る。	館内掲示用の写真入りの新聞を年に4回発行する	一年間

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

事業所名	グループホーム銀の鈴
ユニット名	こもればの郷

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の一員として生活できる介護支援」を法人の理念の一つとして掲げ、地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えている。管理者と職員はその理念を共有し、実践に繋げることができるようミーティング(計画作成担当者会議)の度に話し合い、振り返ることで日々のサービス提供に反映している。さまざまな行事開催を通して、家族・友人・地域の方々との交流を図っている。また自治会や地域清掃、七夕祭り、盆踊り、敬老会に参加している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として、地域の方々との交流を図り、双方向の関係を作っている。今井町自治会の特別会員として主催の行事(敬老会、盆踊り、七夕祭り、防災教室)には積極的に参加している。ホーム主催の行事には、自治会や近隣の皆様をご招待している。行事に必要な備品・道具を自治会より借りている。また紙資源リサイクルやボトルキャップの収集など活動を行い、地域包括支援センター主任ケアマネのホーム見学会も受け入れる予定である。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者職員が、自治会の行事や清掃活動に積極的に出かけて行くことで銀の鈴の皆様のことを理解してくれている。今年度は、保土ヶ谷区内のケアマネ事業所の新人ケアマネ(入職1年未満)のグループホーム見学を受け入れるなどして貢献をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年間6回実施している運営推進会議では、銀の鈴における活動の実際や、今後の取組みなどを報告・相談し、検討している。地区センター、自治会、地域資源の情報をアドバイスとして受け取り、サービスに活かしている。終末期ケアなどの事業所の運営に関することへの話し合いも行われ、そこでの意見を活かしながら実践に取り組んできた。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区の健康づくり係、福祉局に行く機会を作り相談支援を受けている。また、グループホーム連絡会ブロック会議に参加することで区の高齢福祉担当にホームの状況を伝える機会となった。行政によるサービス(インフルエンザ予防接種の自己負担免除、対象者へのおむつの給付など)にかかる手続きを通じて連絡の機会がある。市へは、事故報告書の提出の際に報告や相談、指導を得てサービスに活かすよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の定義（厚生労働省告示第129号）をホーム内に掲示し、研修を行うことで管理者及び全職員が正しく理解できるよう努め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。生命の擁護のためにやむを得ず一時的に拘束が必要と判断された場合は、家族と十分に話し合う場を設け「身体拘束等の理由・実施経過記録」を作成し、理解と同意を得た上で職員への正しい理解と認識に努めている。玄関の施錠については家族会からの申し出により施錠している（防犯上と事故防止のため）。また管理者は施錠を身体拘束の一種ととらえ、施錠に対する弊害も説明している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者と職員は、高齢者虐待とは具体的にどのような事を言うのかを学ぶために職員研修の機会をもっている（高齢者虐待防止法第2条3項,4項）。人権週間にはホーム内研修を開催し管理者と全職員で話し合っって振り返り、学びの機会とした。利用者が日常的に何でも話しやすい環境づくりに努めている。また職員のストレス解消にも配慮し、ミーティングの際あるいは日常的に意見や思いを表出できるように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者と職員に社会福祉士がいることでいつでも権利擁護に関する制度について学ぶ機会を持つことができる。研修の場も提供している。家族から申し出があった時には、成年後見人制度についての話し合いの機会を設けることができている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に、契約に関する説明と納得が得られるよう、運営規定・契約書・重要事項の説明をしつつ、家族等の不安や疑問点を尋ねている。入居の際には再度意思の確認をすることで、理解・納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族からの意見・要望や苦情は、日常的に職員に表せるような関係づくりに配慮し、運営に反映させている。家族の面会時には個人カルテ、看護記録、観察記録を開示し暮らしの様子を伝えるなかで、意見や要望を表せるように努め、意向はその言葉のまま記録して共有できるようにしている。家族会や運営推進会議にて、運営についての意見や苦情を述べる機会を作っている。「意見箱」を作り、無記名で受け付けをしている。外部の苦情受付窓口の存在を玄関に張っている。苦情等あった時は、記録をしそれらには迅速に対応し運営に反映させている。また一年に数回、家族と職員の交流会を実施して機会作りをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員の意見や提案を聞く機会を設けるため、ミーティングを適宜開催している。今では職員から主体的にミーティングが計画されてきている（今年度は、年末年始の休業に関する運営規程の変更を検討している）。また定期的に管理者と複数の役職員が運営に関するミーティングを実施しており、意見や提案を十分に聞くことにより職員の働く意欲の向上やさらには介護の質の確保につながるよう努めている。報告や相談は24時間いつでも受け取る体制をとっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員個々の勤務状況を把握できるようにしており職員各自が向上心を持って働けるように職場環境・条件の整備に努めている。相談がある時はいつでも連絡が付くようにしている。管理者は職員の結婚や病気療養等のやむを得ない休職に対しては、現場に欠員をつくらないように職員配置に全力で努めている。休憩室にはコーヒーマシン、ポット、テレビを設置して一息つける環境の整備を行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格試験対策の勉強会をホーム内でも開催するなど、働きながら資格を取得できる機会の確保に努めている。職員一人ひとり、現場で活躍しているからこそ、実践と理論を結び付けた介護を行うことができるよう研修・勉強することが大切であると考えている。年度当初に研修計画を立て、ホーム内外の研修を受ける機会の確保をしている。研修時は、時間外手当がつき、休日にあたっているときは休日手当が支給される。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同業者との交流を大切にしている。相互訪問等の活動を通じて、情報の交換を行うことで、サービスの質の向上に取り組んでいる。今年度は、見学研修（職員相互研修）を実施、管理者はグループホーム連絡会ブロック会議に参加。他のグループホームの管理者と交流をしている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談では、本人に事前面接を実施し困りごと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための信頼関係の構築に努めている。午後のお茶の時間帯に面談を実施することで、くつろげる雰囲気作りに配慮し本人が気持ちを表現しやすいように工夫をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホーム内を見学していただくことで家族自身がホーム内の雰囲気を実感していただけるよう配慮している。家族が困っていること、不安なこと、要望に耳を傾けながら関係づくりができるよう努めている。行事やお楽しみ会への参加を通じて、家族同士が話し合える機会を持つことができるよう工夫している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談の時点より状況や意向を聴き把握することでアセスメントと課題の抽出を実施している。健康上の課題、経済的な課題など多様な生活上の課題と一緒に話し合う中で「その時」必要としている支援を見極めて他のサービス利用も含めた対応が提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員にとって利用者は人生の先輩であり、教わることが多々ある。利用者も職員も皆が毎日の暮らしの中で力を発揮して協力し合うことで、暮らしを共にする者同士の信頼関係を築いていけるよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者を支えるために、職員は家族と日常的な報告や相談を通してよく話し合い状況を共有できるよう努め、家族と協力できるような関係を築いている。面会や外出、外泊を制限することなく利用者と家族のきずなを尊重できるよう家族の繋がりを大切に考えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が地域の中で自分らしく暮らせるように、馴染みの人との面会、外出、外泊、通信に制限を設けてはいない。例えば年末年始の帰宅、故郷訪問、温泉旅行、彼岸・お盆のお寺参りなど。ご家族や地域の方々と協力し、利用者がこれまで培ってきた地域や社会での人間関係が途切れないよう努めることで、銀の鈴での暮らしに安心を得られるように支援している。行きつけの場所や、楽しみにしている場所を訪れることで入居生活にメリハリがつき不安が解消されている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が自然に関われる雰囲気大切にしている。職員のさりげない気遣いで一人ひとりが孤立しない支援に努めている。一緒に家事全般をするなかで連帯感や、お互いへの感謝の気持ちが生まれている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、ご家族や本人との関係を大切にしている。家族との連絡・相談支援も必要に応じて行っている。例えば経済的理由により特養に移った方を定期的に訪問し面会している。逆に、数年前に退所した利用者の家族が、折に触れホームに訪問してくれている事実がある。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員一人ひとりが、常に利用者の日常生活における希望や意向の把握に努めている。日々の暮らしの中でのことばや表情を汲み取っている。そのことを記録し会議によって職員は情報を共有している。ケアプランを立案する前には家族との面談によって思いを聴くことで、利用者・家族の暮らしへの要望・意向を受けとりいつでも本人本位になるように検討している。生活の中で春が待ち遠しく花が見たいという意向が出てくる。桜やバラなど見に行く計画を立てている。また把握困難な利用者の場合であっても表情や反応で汲み取るよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族等から生活歴や暮らし方、生活環境を聞き取り、これまでの経過や暮らしの把握に努めている。個別の基本情報とアセスメント表を作成している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の中でADLや日常自立度などの確に観察し、個別性の把握に努めている。通常の個人カルテの記録の他に焦点になる必要情報を抽出して記録し、心身の状態の把握に努めている。特に共同生活においては今までの生活歴や生活環境で培ってきた有する力等を、心身に負担でないように発揮してもらおう。役割を持っていただくことが、刺激になり、活動性を引出し、居心地の良い場の提供になると確信する。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族、訪問医療の医師、看護師職員、介護職員らが、利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し現状に即した介護計画を作成している。エアマットの使用により褥瘡が改善したり、物盗られ妄想の利用者の訴えに傾聴を継続し症状が軽減するなどしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人カルテを、日勤、夜勤に分けて記録し、詳細に記録が必要な時は、個人カルテ2号様式に記録している。観察記録、看護記録、申し送りノートから実践、結果を共有しながら介護計画の見直しに活かしている。計画作成担当者は、記録に関する外部研修を受けた。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	社会福祉士や栄養士、保健師の資格を有する職員が在籍することで、サービス上の多機能化に取り組んでいる。IVH栄養点滴を受けている利用者の対応や、他にもリハビリの為の訪問マッサージの受け入れや、希望者には週一回の鍼灸の施術も受けることができ、利用者や家族の意向を支えて多機能化サービスに努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区センター、自治会などから行事やお楽しみ会を実施する際には備品や会場、駐車場を借用している。社会福祉協議会から車椅子を借りて利用者が家族と外泊するなど、社会資源を把握し活用することで安全で豊かな暮らしを送ることができるよう支援している。大型バスでディズニーランドに出かけた時には自治会の敷地を借りて安全にバスに乗り込むことが出来た。自治会長が利用者の体調を気にかけて声をかけてくれながら見送ってくださった。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者と家族の希望によって馴染みの受診先での医療を受けることができる。その場合は家族を介して情報交換を確実にしている。ホームでは、月2回の内科一般、週1回の歯科医の定期往診体制を確立していることで、より適切な医療を定期的に受けられるよう支援している。皮膚科、眼科には家族の付き添いにより、馴染みの医療機関を受診している。また医師及び医療機関と本人及び家族との間の橋渡しとしての支援も行っている。週1回鍼灸師の往診があり希望者が受診している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が週に一度の健康管理を行うことで利用者の体調の把握をしている。介護職員が日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを看護職員と管理者に伝えて相談することで情報を共有し、適切な受診や看護を受けられる機会を逸することなく支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に至った折には混乱の軽減や支援のためにこまめに面会に努めている。家族と経過を共有し相談支援をすることで安心できるように努めている。入院中はリハビリや食事の経過を知るために訪問し、その機会に病院関係者との情報交換・相談をすることで退院後はホームでの生活に即対応できるよう配慮している。病院関係者とご家族が面談を行う時には同意を得てホーム職員が同席することで病院関係者との関係づくりを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に係る指針（重度化と終末期）により、利用者と家族の希望を伺い、書面の提出を受けている。職員の力を総合的に判断しながら事業所でできることを説明し、その都度、話し合いながら方針を共有できるよう取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員研修で「事故防止の基本と危機意識」について全職員が学んでいる。誤嚥、転倒など色々な急変や事故発生場面を想定し、マニュアル作成と訓練を行いホーム内研修を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣の協力を得て行っている年に2回の避難訓練では、昼夜を問わず避難できる方法を身につけるとともに、消火訓練、通報訓練を実施し、職員と利用者は防災用品の使用方も身につけている。非常食、カセットコンロ、オムツ等の備蓄をし備蓄場所は地域の方の提供場所を含め数箇所に分散している。備蓄品は定期的に点検を行っている。平成24年に建物オーナーが井戸を掘ってくださったことで非常時の水の確保ができています。浄水器を使用すれば、飲料水としての基準を満たしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「その人らしい生き方と尊厳を守る」という法人理念の一つに基づいて、常に利用者の人格を尊重した支援を実践できるように努めている。呼称は様付けでお呼びし敬語を使用している。ミーティングでは介助の方法や声かけについて、一人ひとりの状況に合わせたプライバシーの確保を徹底するように話し合っている。必要時にはケアプランとして立案し、言葉だけでなくジェスチャーやアイコンタクトを活用して対応することを統一している。個人情報の保護についてはホーム内研修、外部講習会で学んでいる。記録等個人情報の取り扱いには十分に配慮し、書類の保管は書類保管庫に必ず施錠をし守秘の徹底に努めている。日々の記録を置いてある書庫にも簡易施錠を設置してある。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食材の買い出しでの食材の選定や、今日の献立、入浴の希望、外出時の洋服の選定など日常生活の中で自己決定の機会を設け希望を表出できるように働きかけている。自分の誕生日会での食事の内容を決めたり、家族との電話の希望なども表出できている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	運営方針である「一人ひとりの息遣い・呼吸に合わせた介護支援」の実践に日々努めている。職員の都合による業務を優先することなく、起床時間や食事の時間、休息、入浴、散歩など、一人ひとりのペースに合わせて、その日をどのように過ごしたいか、可能な限り希望に沿った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好みに合った服を着ていただいている。これまでの習慣を大切に、自宅から持参した化粧品を日常的に使用しておしゃれを楽しむこともできている。月一回、理容師の訪問があり毛染めやパーマなどの希望に沿ったおしゃれを支援している。自己決定を表出することが困難な利用者には、これまでの生活歴や家族からの情報を参考にその人らしい身だしなみを整えられるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が職員と一緒にその日の献立を考えて食事作りや片づけを行うことは、利用者の有する力を活かしこれまでの暮らしを継続するためにも大切な支援であると捉え日々実践している。食材の買い出しにも一緒に行き、旬の食材、嗜好品を購入し食事が楽しみなものになるように支援している。自宅から使い慣れた茶碗、湯飲み、箸など持参している。職員も一緒に楽しく食べるようにしており介助する一方ではない。庭で育てた野菜や、地域の畑で作った旬の野菜や果物をいただき食卓に取り入れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事を作るときは、一人ひとりの食べられる量を勘案しながら食材の組み合わせによる栄養バランスを考えている。必要に応じて水分摂取量を記録して1日を通して必要量を確保できるように支援している。カロリー制限や疾病のあるご利用者には、医師や看護師の指示を受け、栄養士の職員から個別にアドバイスを受けている。職員の誰もがカロリー目安を立てられるようにカロリー換算表を作成するなど工夫している。個別の状況を内科医、歯科医師らと共有して、一人ひとりの歯の状態、咀嚼力、嚥下状態、消化力、活動性など総合的にとらえて食材や食形態を選択し支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週一回の訪問歯科医による口腔ケアを実施している。職員は歯科医師または歯科衛生士に一人ひとりの口腔状態について説明とアドバイスを受けている。毎食後は習慣に基づいた歯磨きができるように支援をし、利用者によっては職員が磨き残しの確認やフォローを行っている。義歯は毎夕食後に、入れ歯用のつけ置き洗浄剤を使用することで清潔を保持している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個別に排泄状況、パターンの把握に努め、可能な限りトイレでの排泄を促すことでオムツの使用量を減らす努力をしている。居室にトイレを設置することで、特に夜間の排泄が間に合わないことの防止になっている。気兼ねなく気持ちよく居室で排泄ができるため、プライバシーの保護にも役立っている。トイレで排泄を行えたことが生活全般の活性化にも繋がった経験を基盤に自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事には食物繊維を含むものを提供したり、水分の補給のためにお茶、スポーツドリンク、ヨーグルトドリンクを飲むことで便秘の予防に取り組んでいる。また、気分転換と全身運動とを兼ねて散歩に出かけたり体操をして体を動かす工夫をしている。個別の排便パターンを把握したり、必要に応じてかかりつけ医に相談している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の意向に沿った方法（湯船やミストシャワー、夏場のシャワー）や日時を可能な限り考慮している。季節により、菖蒲湯、ゆず湯、入浴剤を入れるなど入浴を楽しめるように工夫している。入浴への恐怖心が軽減できるように滑り止めマットを使用するなどして安全面に配慮することで安心できるように配慮している。同性の介助を希望される方にはその要望を汲み取り同性介助を実施し、羞恥心に配慮している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の休息のペースを掴み、日中に希望があれば昼寝をしていただく。就寝時間については、本人の生活習慣や体調に合わせた希望の時間に休むことができるようにしている。日光浴や買い物、散歩など日中に適度に体を動かすことで夜間の安眠に繋がれるよう工夫している。更に気持ちよく休息できるように寝具を清潔に保ち、ベット周りの環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医から処方された薬は、効能書きを個別にファイルして管理し、職員は薬の目的、副作用、用法用量について十分に理解できるように努めている。特に医師の指示で薬が変わった時には、家族とも情報を共有し職員間での申し送りを確実にしている。職員は症状の変化の確認に努め、医師や薬剤師に相談できる体制となっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や有する力を活かして、家事全般や庭仕事などの役割の支援を行っている。耕作、野菜の収穫、音楽療法、動物の世話（抱く、散歩）など行っている。また、お花見や各種行事（運動会や演奏会や食事会）は楽しみごと、気分転換になっている。思い出を写真に残し掲示することで後々も思い出すことができ日々の張り合いにつながれている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりのその日の希望に沿って出かけられるよう支援に努めている。散歩、戸外で日光浴、職員と食材の買い物、昔馴染みの土地への外出、家族との温泉旅行、ドライブ、お墓参りなどに出かけている。家族や地域の人々と相談・協力し合って、利用者がこれまでの地域での暮らしを継続するための外出支援を実践している。これらは社会的リハビリの目的も兼ねており、車椅子の方も外出されている（例えば、毎年見に行くチューリップ畑、ディズニーランド、お誕生日の外食など）		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則的には、必要なものを持参され、また必要となった品は家族が持参される。お金を所持することは家族の意向にもよる。小遣いを持っている利用者は、職員がフォローして小遣い帳をつけている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	フロアにご家族様のみ番号を開示している携帯電話を設置し、いつでもご家族からの電話を取り次ぐことができる。また、利用者からの申し出があれば、自由に使用できるよう支援している。絵手紙や年賀状などが届いたらやり取りができるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夏の強い日差しがリビングに入るため、25畳用のエアコンを設置すると共に、季節の切り花、観葉植物を常に飾っている。また、正月の門松、ひな人形、節句人形、七夕、お月見のお供えなど、季節の風習を取り入れ季節感を味わっている。共用空間は常に清潔を心がけ、清掃を徹底している。年に二回の専門業者による清掃や、24時間リビングで空気清浄器や加湿器を作動させるなど心地よく過ごせる工夫をしている。誕生会や、お楽しみ会の写真が貼ってあることで、思い出の共有と空間認識ができて良いとの外部からの意見も頂戴した。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気のあった利用者同士で過ごせるよう自由にテーブル、椅子を配置している。また、会話を楽しみたい方、テレビを見たい方、音楽を聴きたい方それぞれに居場所を確保できるようにしている。音楽療法などサービスに応じて席も自由に移動している。また、ソファや椅子を置き、座って語らえるようにあるいは1人でもくつろげるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人が家庭で使い慣れたものや、思い出のあるものを持参して、本人と家族が思い思いに家具の配置やコーディネートを行っており、居心地よく過ごせるよう工夫をしている。例えば、仏壇、ダンス、鏡台、時計、家族の写真など、自宅使用の馴染みのものを持参している。居室にCDラジカセを持参して好みの音楽などを聴くことを楽しみにしている利用者もいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室ドアの前には表札、家族と本人の思い出の写真を掲示するなど「分かること」を活かす工夫をしている。ホームエレベーターは利用者の身体機能に応じて、安全かつ階段歩行が可能な利用者は職員の見守りで階段昇降を促して、有する力の活用をして自立の生活を促している。		

目 標 達 成 計 画

事業所

グループホーム銀の鈴

作成日

平成26年8月26日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	19	活動の予定や計画を、より共有しやすくする	その月のスケジュールを開示することで家族や本人が自分の暮らしの計画を立てやすくなる	いつでも家族・本人が自分から予定を確認が出来るようにスケジュール板の掲示を継続	一年間
2	2・4	実践を通じて積み上げてきた経験を地域の人々に向けて活かす	地域支援としての活動計画を立てる	年間行事予定に地域とのかかわりや地域支援のための欄を設ける	一年間
3	19	日々の生活の様子を分かり易い方法で伝える	日々の生活の様子を分かり易い方法で報告・開示することで家族と共に活動を振り返ることが出来る。	館内掲示用の写真入りの新聞を年に4回発行する	一年間

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。